

会長 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227
事務局 〒577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796
編集室 〒586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348
HomePage担当 〒577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

令和6年12月(2024年) No.708

やはり無理か

「東京アマチュア映像祭・全国ビデオ映像コンテスト」

日本アマチュア映像作家連盟の主催にと思ったが！

OMC ニュース706号(10月号)で、従来から主催されている東京アマチュア映像連盟の全国コンの応募者が関東に偏っている為、これを全国規模に広げようと、主催を作家連にし、東京アマを後援にしたかどうかという提案の記事を掲載しましたが、よくよく検討しますと、これは無理だと言うことが判りました。全国コンの発表は東京アマ連の作品発表(大阪での大阪アマチュア映像祭の発表会にあたる)の場がメインであり、全国コンはその付随事業として行われているから、経費ひとつとっても、全国コンに掛かる経費(会場費やプログラム費、郵送費)がいくらかかっているか分けようがないのです。全国コンを東京アマチュア映像祭と完全に切り離して開催するのであれば、はっきりするでしょうが、又お世話して頂いている方に作家連の会員さんも居られますが、基本的には東京アマ連の世話役さんで実務を行っておられます。

ですので、結局の処、従来通り東京アマ連が主催、作家連は後援だったのを、せめて共催、という形にし、昨年までは10万円の補助金を15万円に増やして全国コンとして更にPRを強化していきたいと考えています。

全国コンテストの少ない今、貴重な存在である東京アマチュア全国ビデオコンテストが中部地区以西からの応募者が増えることを願ってやみません。

日本アマチュア映像連盟 会長 合原一夫

12月例会のお知らせ

- 第3土曜日21日・10時～世話役会・来期役割分担他、世話役の方はご出席ください。
- 同日、12月例会・13時開場今年最後の例会にどうぞお越しください。
- ✚ 当日年会費の徴収を行いますので、ご協力お願い致します。

予告1 ; 1月例会は予定通り第4土曜日25日に行いますが、13時より総会と例会、

17時より5階レストランで新年宴会を開催いたします。予定しておいてください。

予告2 ; 第57回東京アマチュア映像祭全国ビデオ映像コンテスト受賞作品【大阪発表会】

衆議院の解散総選挙の影響で日程を変更しました。12月18日(水)13:00から布施駅前ヴェルノール布施5階夢広場多目的ホールで開催されます。

第25回「ビデオサークル紀南映像祭」(田辺市中辺路文化祭協賛) を私の生まれ育った故郷で開催。 11月23日(土)

1997年に田辺市の「紀南文化会館」で第1回目を開催して、今回で25回目を数えた。コロナ禍で3年の空白があったので、通算28年目ということだ。当時の「ビデオサークル紀南」は、ベテラン作家が十数名居られたが、ほとんどの方は黄泉の国へ旅立たれた。現在は、残った会員3名だけとなった。中辺路会場に移ったのが2004年で毎秋、紀南文化会館と2ヶ所で開催していた。中辺路会場のみになったのが2011年からです。これは、和歌山県アマチュア映像連盟の県下合同イベントとして5クラブが同時開催していました。現在は、4クラブが「和歌山県アマチュア映像連盟後援」として実施しています。



このような状況では、一人3~4本の作品を出さないと、映像祭は成り立たなくなりました。招待作品の協力をいただいて何とか頑張っているところです。今回は、合原会長の「米寿を越えて」をお借りして、旧作品含めての開催となりました。

私たちの都市開催に比べて田舎のローカルの映像祭は、和やかなムードがあって、観客同士がファミリーの感じがあって、あたたかい雰囲気です。特に土地の映像作品を上映すると笑いがわき起こります。土地の人物が登場すると、ワアーとかキャーとか話し声が沸き上がります。「ワアー、あの人亡くなったんやんか」の声が起きることがあります。ローカルでの映像祭は、肩がこらず、楽しいひと時を過ごすことができ、やる気を起こさせてくれます。

いつまで続くか分かりませんが、皆さんの招待作品のご協力を頂いて頑張っていきたいと考えております。

(記・ビデオサークル紀南、副会長・岡本至弘)

11月例会レポート

11月例会は23日の勤労感謝の日、外はそろそろ紅葉の見ごろとあって行楽客も多くなったが、それ以上に大阪市内は外国人観光客があふれかえっていて、喫茶店探しも大変。さて岡本副会長が和歌山の実家近くで行われる「ビデオサークル紀南映像祭」に参加されるため、例会はお休みでした、それ以外の皆様は通常通り14名の出席と12本の作品が集まり楽しいひと時を過ごした。

- 運営担当 : 司会 上総、書記 高瀬、YouTube 関係 高田、映写 高田、坪井
メモリー記録 江村、受付・照明 森下、大久保の各氏
 - 出席者 : 岩井、植村、江村、大久保、上総、合原、高瀬、高田、坪井、中川、
道下、宮崎、森下、山本の14氏、生田氏は作品のみ
- 上映作品 (今月の書記は高瀬)

1. 牛滝街道 山本正夢 10分20秒 BD

(作者コメント)

牛滝山で紅葉祭りと知り、ウォーキングがてら行きましたが、紅葉には少し早かった。今年の暑さで二週間ほど遅いようです。

(書記コメント)

今回の街道シリーズは岸和田城を起点に牛滝山までの牛滝街道を歩かれている。街道沿いには古墳あり、城跡、社寺、池、温泉、滝、地蔵、昔の家並、色づき始めた紅葉など、写し応えのあるポイントが揃っており、それらをテンポの良いカメラワークで上手くとらえられている。ただ作者のせいではないが、これらのポイントを繋ぐストーリーのようなものがあれば…もっと深みが出るのではないのでしょうか。なお岸和田から牛滝山まで自動車道で行くと15キロとあります。歩かれた距離も同じくらいなのかと思われ、相変わらずの健脚に驚かされます。



2. 山中溪 (やまなかだに)

江村一郎 8分30秒 BD

(作者コメント)

撮影にあたり、山中溪は以前より知っていたので、桜と鉄道と絡めての作品にすればいいと思っていた。しかし現地に行くと、桜以外にも撮影対象が色々あり、仇討ち場の話などは土佐藩の廣井磐之助や



勝海舟の協力を得て「仇討免許」を受ける

勝海舟と坂本龍馬が登場するのでまとめるのにかなり苦労しました。何も無理して取り上げなければ済むことだが関心が向くと取り入れてしまう。その結果ややこしくなる。

(書記コメント)

山中溪と聞くと、大阪と和歌山の府県境に位置し、昭和40年代から植樹された桜が1000本という桜の名所を思い浮かべるが、作品は冒頭に日本最後の仇討ち場という顕彰碑を紹介し、全編8分30秒のうち満開の桜やそれに因む地福寺や桜祭りは5分弱で、後は仇討ちの話で綴られる。仇討ちを援護した勝海舟や坂本龍馬の話も加わり、ボリュームが増え、作者はまとめるのに苦心されたということだが、全体の構成からすると、仇討ちの話は少し多過ぎるように思える。しかし、それだけ作者の思い入れが籠った作品になっているとも言えます。

3. 高野山町石道を歩く

道下敏行 9分7秒 USB

(作者コメント)

高野山町石道を九度山の慈尊院から高野山の壇上伽藍・根本大塔まで町石をたどりながら歩いた記録である。途中災害のため2箇所迂回した。杉木立の中の静寂と光と影が印象的であった。



(書記コメント)

町石は慈尊院から高野山根本大塔まで180基建っており、町石と町石の間が約109メートルで、その距離は22キロに及ぶという。映像ではほとんどが山道のように、本人が歩いてい

る姿を何度も撮影されながら、この距離を 1 日で踏破されたのには驚かされる。そして山の中の木漏れ日や陽の影など太陽の光の使い方、描写が秀逸。撮影データを見ると、フレームは 3840×2160 で 4 K、フレーム率は 59.94、すなわち 60 P、総ビットレート 59138kbps でかなり高いレベルの画質設定で制作されているようだ。

4. 京都太秦シネマウォーク

生田幸靖 8分32秒 USB

(作者コメント)

2010年に公開された映画「京都太秦物語」のロケ地を巡るツアーに参加しました。この映画は山田洋次監督が立命館大学の教え子たちと作り上げた地元密着映画で、商店街の店主がそのままの役で出演しています。

(書記コメント)

2010年に公開された京都太秦物語のロケ地、大映通り商店街を巡るツアーに参加し制作された作品。映画の輝かしく懐かしい歴史をたどりながら出演された素人のクリーニング店や豆腐屋の夫婦のインタビューを実際の映画と組み合わせた構成が巧みで、オープニングとラストの嵐電の風景が味わい深いものとしている。中村さんをはじめ写り込んでいる京都のビデオクラブのメンバー数人も熱心に撮影されている。



5. 神戸メリケンパークを訪ねて

中川良三 12分6秒 USB

(作者コメント)

神戸メリケンパークのポートタワーがリニューアルしたと聞き、まだ登ったことがないので好奇心で登ってみることにした。何度も来たことがある神戸メリケンパークを散策してみた。



(書記コメント)

神戸メリケンパークを訪ね、震災メモリアルや様々なモニュメント、そしてポートタワーなどを散策されている。晴天の空や海の対比などきれいな映像で綴られ、AI トーク (旧声の職人) の男性の声の説明も分かりやすい。ただ 360° カメラで撮影されたと思われるが、最初から最後まで湾曲した映像は、単調な感じがします。ポートタワーや展望台の港風景などはその映像が生きており、面白い表現なので強調したい部分だけ使うようにされたらどうでしょうか。

6. 越後冬紀行

合原一夫 11分45秒 DVD

(作者コメント)

東京在住時の撮影会で、越後の国を旅したときの記録。雪深い国での風景、雪まつり等今見ても懐かしい。1998年(平成10年)作。

(書記コメント)



撮影会で行かれた越後の国の冬の旅。その年はやや雪が少なかったようだが、雪の積もった茅葺屋根や、雪に埋もれたお地蔵さん、蓑笠を付けて雪かきをする人など、雪国の風景を印象深く描かれている。さらに山を越え、向かわれたのは越後平野、十日町。ちょうど雪まつりが行われており、さまざまな雪像が造られている。ラストは大きな雪の建造物の舞台、京友禅、加賀友禅と並び友禅きもの、振袖の一大産地である十日町らしく、振袖で着飾った数十人の女性たちがフィナーレを飾る。ラストはナレーションにもあるように、雪深い越後の国というイメージとは少し印象が違ったようだが、それはそれで、さすがに上手く結ばれている。

7 神秘の無人島 多景島

高瀬辰雄 7分20秒 BD

(作者コメント)

滋賀県彦根の沖合6キロに浮かぶ無人島、多景島は見る方向によって様々な景色に見えることからその名がついたといわれている。船が一日一便通っているが、停泊時間がわずか30分なので、ゆっくりカメラを構えているわけにはいかず、急いでの撮影となりました。



8. おじさんたちの料理教室

高田幸夫 7分 USB

(作者コメント)

慣れない男達がエプロンを着て料理を作りました。

(書記コメント)

料理に慣れないおじさんたちが餃子づくりに取り組み、楽しく語り合う様子をテンポの良い、カメラワークでまとめておられる。メイン料理が餃子というのもおじさんならではのようで面白い。たまに一日だけのことなので、餃子を皮に包むのに奮闘しながらも楽しく出来るのですが、これが毎日3食となると、やはり奥さん方は大変なんだろうと改めて思い知らされるような作品です。



9. 乙女ヶ池と田植 (改作)

上総秀隆 7分1秒 BD

(作者コメント)

題名が「乙女ヶ池と田植」となっているのに乙女ヶ池が後半になるまで登場せず、題名に違和感があるとのこと指摘があったので、最初の映像を少し修正しました。

(書記コメント)

6月例会で映写された同じタイトルの作品をリメイクされた作品。先の作品は乙女ヶ池が後半にまで出て来ないので、タイトルに違和感があるということで改作された。乙女ヶ池を田植えのシーンの間に挟む構成で、それなりに上手くまとめられているが、映像を見る限り、田植えと農家の人へのインタビューもあって、時間も長く、メインのように思える。前半に近江高島の街の風景や大溝祭りの準備シーンが出てくるので、半ば以降の乙女ヶ池と田植えとの



つながりをタイトル通りどう表現するかは難しい。

10. 曾爾高原 2024 ススキ

道下敏行 2分39秒 USB

(作者コメント)

曾爾高原の秋の夕暮れのススキを撮影した。夕日の中、黄金色に輝くススキ、移り行く夕焼けが印象的です。

(書記コメント)

夕日に照らされ、輝くススキの穂、移りゆく夕焼けの空の色が美しい。秋の夕暮れを詩的な映像で描かれた好短編。撮影データを見ると「高野山町石道を歩く」「鞍馬の火祭り」と同じ4Kだが、フレーム率は23.98、いわゆる24Pとなっている。24Pは30Pや60Pに比べ映画的で映像の空気感が違うといわれる。60Pと24P、作者は作品によって映像表現を使い分けられているようだ。



11. 鞍馬の火祭り 2024

道下敏行 3分38秒 USB

(作者コメント)

一度見たいと思っていた鞍馬の火祭りを撮影する。当日、雨の予想であったが、曇りでよかった。撮影は交通規制もあり、一方通行、立ち止まることが出来ず、人（特に外国人）が多く大混雑、撮影は難を要した。

(書記コメント)

作者コメントにあるように、鞍馬の火祭りを撮影するのは非常に難しい。初めての撮影でよくこれだけ撮られたものだと感心します。私も何度か撮影に行ったが、よほど綿密な下調べ、鞍馬の地形、祭りのスケジュールなどを把握していないと撮れない。それでも狭い場所に観光客がひしめき合い、どこの国かと思うほど、周りは外国人ばかりで、立ち止まることが出来ない鞍馬寺の石段でのクライマックスに遭遇できるかは運次第。せっかく運良く近くまで行かれているのに、燃え盛る松明が交通規制中の警備員が掲げる注意書きのボードに一部遮られているのが惜しい。



12. 豊橋 炎の祭典

高瀬辰雄 7分 BD

(作者コメント)

愛知県豊橋市が発祥の地といわれる手筒花火のイベントです。この日の昼間は大雨、強風でしたが、幸い夕方には雨も上がり30分遅れで開始。カメラマン席が事前の抽選で決められ、1m四方の枠から移動が出来ず、距離も遠いため撮影はなかなか思うようにはいきませんでした。やや長いという指摘もありましたが、後半同じような手筒花火のシーンが3回続くので、これを2回にまとめた方がいいのかも知れません。

